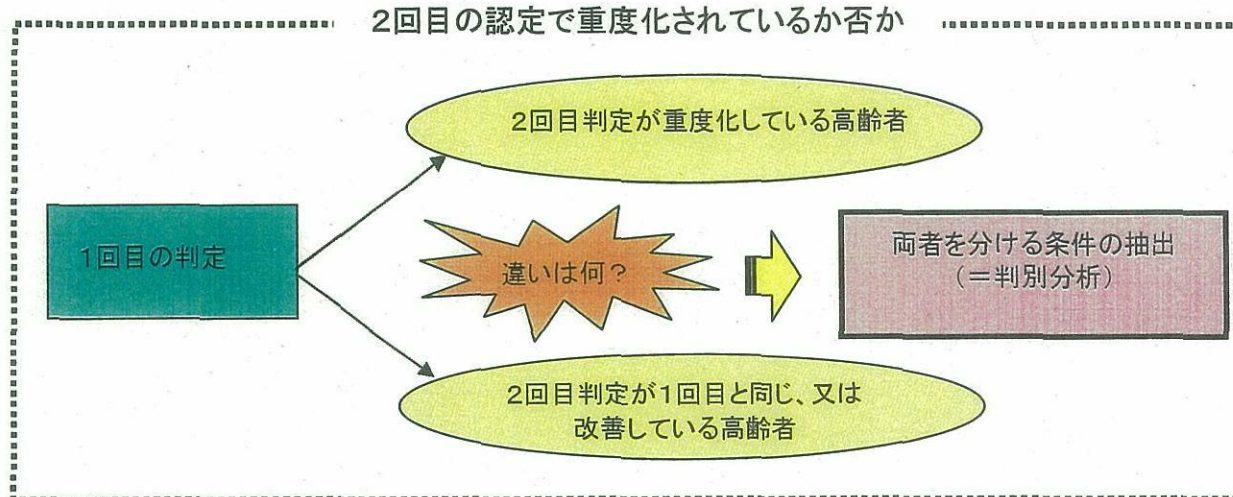


# 状態の安定性の判定について

要介護認定を2回実施した者のうち、1回目の認定で要介護1又は要支援2と判定された高齢者(165,514人)を、2回目の認定で1回目より重度に判定された群と、2回目の認定が1回目と同じ、又は維持改善が見られた群の2群に分けて、比較(判別分析)。2回目の認定で重度化する群を状態不安定、維持・改善している群を状態安定と判定する。



判別分析は、元のグループをある条件のもと2つのグループに分ける統計手法である。条件となる認定調査項目の組み合わせにより、対象となる高齢者が、2回目の判定時に判定が重度化している高齢者か、初回認定と同じ又は改善されている高齢者かを判別することができる。

